

2023年度 ユニークプロジェクト採択一覧

所属 キャンパス	プロジェクト名	活動目的	活動概要	
1	湘南	AI・データサイエンスナビゲーター	現代の文理共通の新基礎知識として「数学・データサイエンス・AI」を学ぶ人々をナビゲートする	現代社会の基礎知識として、「数学・データサイエンス・AI」が必要とされています。私たちは、AIやデータサイエンスについて学ぶことの重要性を認識し、東海大生だけでなく、地域の高校生、社会人、さらには日本の多くの人に面白さを知ってもらおうプロジェクトを立ち上げました。本プロジェクトは、AIやデータサイエンスに関する情報を発信し、東海大生や地域の人たちが関心を持ち、学ぶ意欲を高めることを目的としています。
2	湘南	NEO Foods	"食"に関する社会問題の解決に貢献する	フードロス削減を目的とした活動。SNSでの啓蒙活動として規格外野菜や賞味期限が近い食べ物を用いた「フードロス食堂」を開催する。この食堂では大学近辺の地域活性化をも目標とし、社会貢献を目指す。かねてから親交がある栗山町で援農を行い、農業技術について学び知識を習得。その後、大学付近の学生などとワークショップを開き交流をする。
3	湘南	Bottle Pavillion	リサーチ・回収・制作の過程でペットボトルや、SDGsに対する知識を深める。様々な学生とドームを作成し展示を行い、意識改革を促す。	近年、ペットボトルはラベルレスなどの商品も登場し、環境問題に対し大きな動きを見せる。一方で、ペットボトルのラベルやキャップを分別している学生が少ないことに問題意識を感じる。そんな中、今回、社会問題に対して自主制作活動・展示体験を通じて、リサイクルの大切さを再認識させ、多くの学生に、意識的に分別に取り組んでもらいたい。
4	湘南	ぶらクル	学内移動の価値観を変えるため	ブラクルでは、使われていない自転車を活用したプラットフォーム型シェアサイクリングサービスを提供する。つまり自転車を所有しているが使っていない時間帯がある「オーナー」と、自転車を利用したいけど所有していない「ユーザー」をつなげるプラットフォーム型のシェアサイクリングサービスを提供するということである。このために我々は、ノーコードのAdaloを使用してアプリケーション開発を行う。
5	湘南	Ubumwe coffee Project	Ubumwe coffee Projectを通じ、学内生徒がフェアトレードについて関心を寄せ、SDGsなど諸問題へより関心を寄せるためのきっかけになる。	「社会問題の解決に寄与する活動」の中から国際社会での貧困、格差、不平等の問題に着目し、直接取引で輸入したコーヒー豆の販売を行います。現地と直接繋がり、生産国と消費国の間の搾取/被搾取関係、それに伴う貧困について知り、対等な関係の重要性について理解すること。そして、最終的には学内でカフェを開設し、正しいフェアトレードへの理解やその他SDGs諸問題解決に対する能動的な活動を促すことが活動の目的です。
6	湘南	興味探究プロジェクト	中高生に科学技術に興味を持ってもらいたい	科学実験や電子工作のワークショップを通じて小中高生に科学技術に興味を持ってもらって、その科学技術がどのような仕事につながるかを知らせてもらうことで、働きがいを持って産業と技術革命に携わる将来の職業選択の幅を広げる活動。
7	湘南	東海大学LLMプロジェクト	学生による生成AI（大規模言語モデル）の開発および応用	本プロジェクトでは学生による大規模言語モデルおよび応用ソフトの開発を行い、その成果物をOSSとして公開する。また、学内で生成AIの開発、公開することで東海大生のAIリテラシーの向上とその活用を促す。応用ソフトの具体例としては自然言語によるキャンパスの案内システムが挙げられる。新入生や訪問者へのオリエンテーション支援、施設案内、イベント情報提供など、キャンパスライフの向上に繋がると考える。
8	伊勢原	Project Paré	側弯症スクリーニングに用いるiPhoneアプリを開発する	特発性脊柱側弯症は成長期に発症・進行する疾患で、その発症率は2-3%と言われている。重度に進行すると侵襲性の高い手術が必要になる一方で、早期発見によって進行を軽減出来るのも特徴である。しかし、側弯症検診の主たる機会である学校健診は感度・頻度の面で理想的と言えない。私達はiPhoneを用いた側弯症検診アプリを開発する。このプロダクトは、家庭での簡便な検査を可能にし、側弯症の検診頻度を向上させる。
9	渋谷	「+digital」	渋谷区の「高齢化高齢者の孤立」・「デジタルデバインド」の課題を解消する	渋谷区在住の高齢者が抱える孤立化やデジタルデバインド等の課題解決を目的とした活動。秋募集にて採択された活動を通して、デジタルデバインドは高齢者が抱える課題の1つにすぎないため、スマホ操作を教えるだけでは課題解決につながらないと感じた。そこで今年度は高齢者の皆さんにとって「楽しいと思える空間」を創造すること、「新たな挑戦」や「学びの一步」につながる仕掛けをつくっていくことによって課題解決に取り組む。
10	静岡	マイクロプラスチック活用プロジェクト SeaMyPlas	児童を対象に清掃、ワークショップなどを通して環境問題への認知を広める	東海大学海洋科学博物館見学後、三保地域の海岸でマイクロプラスチックを20組前後の親子と一緒に拾い集める活動を行う。その後集めたマイクロプラスチックをもとにキーホルダーなどのアクセサリを制作をする。拾い集める『体験』と、集めたものを再利用する『体験』活動を行う。この活動を行うことによって、若年層への環境問題への認識を促進し、リユースを広めていく。
11	静岡	海の技術を教えたいプロジェクト	船舶や水中ロボットなど海の技術を学び、得た知識や経験を子供や学生に伝えることを目的としている	国内の水中ロボット大会に出場すること、及び小中高生を対象に船や水中ロボットを関連させたイベントを開催することで、その面白さや重要性を学んでもらうことが目的である。これらの活動を通して、プロジェクトメンバー及びその周りの人々に海の様々な技術への理解を深めていくことを目的とする。さらに大会やイベントに向けてチーム一丸となって取り組むにあたって、メンバーのコミュニケーション力や関係構築力の向上を目指す。
12	熊本	熊本地域プロデュースプロジェクト	現在熊本県では過疎化、高齢化が進行している。これらの問題解決のため、「地域の魅力の再発見・再発信」を活動理念に活動している。	活動理念のもとに地域でのイベントを開催し、観光客を誘致することで観光による解決をはかろうと考えている。地域の住民とコミュニケーションを取りつつ、阿蘇地域・天草地域・熊本市内での活動を行う。また、問題解決への思考力・行動力を培う、観光客や住民とのコミュニケーション力を培う、SNSアカウントによる情報発信やWebサイトの作成スキルを身につける。
13	熊本 阿蘇くまもと臨空	阿蘇MIRAI広場	熊本地震前まであった阿蘇地域との交流を絶やさず南阿蘇村を明るく盛り上げることを目的とする	南阿蘇村と学生の繋がりを深めるために村おこしを行い、企画の運営などにより社会スキルを養うことを目的とするプロジェクトである。物事に進んで取り組む姿勢や南阿蘇村の地域の方と東海大学の様々な学部・学科の学生などを巻き込み、熊本地震前よりもさらに深く明るく交流ができる、そんな環境を作りたいと考える。社会人の一歩手前の我々学生の成長にも、南阿蘇村をさらに盛り上げることにもつながるプロジェクトにしたい。